

《福井市の公民館に思う》



福井のあたり前は、全国のトップレベル

前福井市教育長 内田 高義

「福井市の公民館は、原則、小学校区ごとに設置され、地域に密着した職員体制(地区選考内申)のもと、社会教育、生涯学習及び地域活動の拠点としての役割を果たしている。また、各公民館には各種団体、住民の代表等で構成される公民館運営審議会を設置し、民意を十分に反映した中で、地域住民との協働のもとに運営されている。」

これは「福井市の公民館 ～つどう まなぶ むすぶ～」創刊号に記載されている内容である。平成 25 年 4 月に川端喜彦氏が中央公民館館長に就任され、中央公民館の役割や特徴について話し合ったことが思い出される。彼は、「本市の各公民館の取組、活動は全国のトップレベルであり、公民館関係者はもちろんのこと、多くの市民に各公民館の特色ある活動事例を紹介し、このことを広報することは、中央公民館の重要な役割でもある」と力説をしていた。現在の全国トップレベルの活動内容と、公民館のあゆみも併せて作成すれば、本市公民館の現状と歴史を手軽に知ることができ、資料集としての価値も大いに期待できるとの思いで賛同した。

それから 1 年後、創刊号を教育長室に届けに来てくれたときの達成感と満足感に満ちた彼の笑顔がつい先日のように思い出される。一方で、全ての地区館を紹介するのに、あと何年かかるのか、冊子は年に何回発行できるのか等の課題も抱えていた。そして「何か気がついたことがあれば」と感想を求められ、「公民館の歌を載せたらどうだろうか、学校の校歌と同じで、公民館への願いや希望がきっと込められているはずだから冊子の格調も高くなると思う」と答えると、その 4 か月後の平成 27 年 6 月発行の第 2 号に、歌詞だけでなく、作詞・作曲も含めた楽譜、公民館の歌（自由の朝）が掲載されているではないか。彼のすばやい対応に感謝したものである。「更に欲を言えば、歌ができたときの背景か説明もあると最高だ」と呟いたら、平成 28 年 2 月発行の第 4 号に、楽譜に併せて歌の由来が掲載されており、またまたその対応に感激をしたものである。その号の巻頭言は、彼の経験から得た教育観、特に公民館関係者へのエールが込められた内容でまとめられており、今でも熱い思いと気迫が、その一文一文から伝わってくる。しかし、第 4 号を手にすることなく、彼はこの世から旅立ってしまった。同級生であり盟友だった、川端喜彦氏のご冥福を改めてお祈りし、彼の遺志が中央公民館の平馬館長をはじめ編集委員の方々に引き継がれ、今回、第 13 号が発行されたことに心より敬意を表し感謝を申し上げる。

「福井市の公民館」も、あと 10 公民館を紹介して一巡する。まさに、本市公民館の過去・現在を端的に表しており、未来に向けての宝である。各公民館では、この冊子が創刊号から保存されており、何時でも誰もが手に取って見ることができる。本市全体の公民館の歴史や地区公民館の特徴的な活動を知る資料としての活用はもちろんのこと、現在、各公民館で取り組まれている諸活動のどれもが、実は全国のトップレベルの内容であることも知っていただきたい。(第 11 号の受賞歴参照) 地域活動の拠点となる公民館での諸活動が、これからも地域住民との協働のもと、次の世代へと引き継がれていくことを切に願っている。